

表町商店街データサイエンスラボ（連携先：岡山市表町商店街）

ラボの課題

表町商店街について、様々な観点から調査を実施し、商店街の経営と将来に資する情報を集めました。本年度は9名の学生が、商店街来街者の外面（行動）と内面（意識）をそれぞれ調査する2つの班を構成し、春学期の現地見学を経て、秋学期に各々の調査を実施してデータを整理し、報告しました。

1年間の活動報告

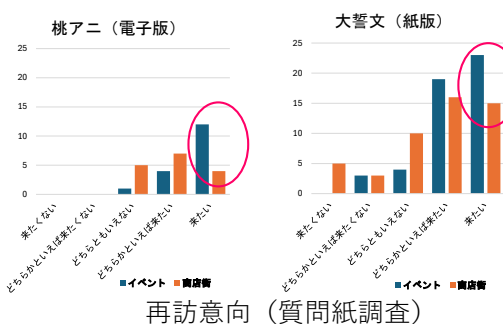
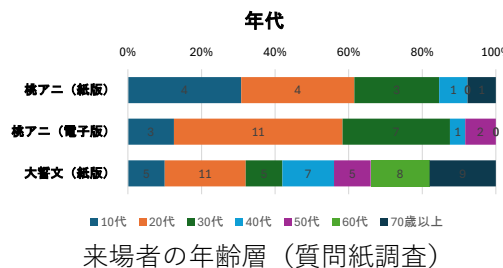
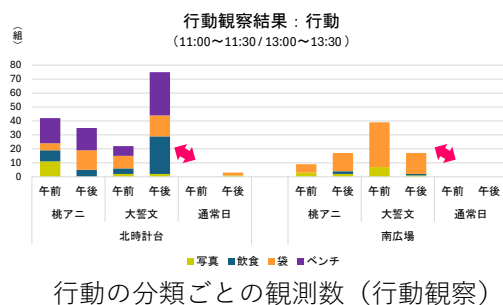
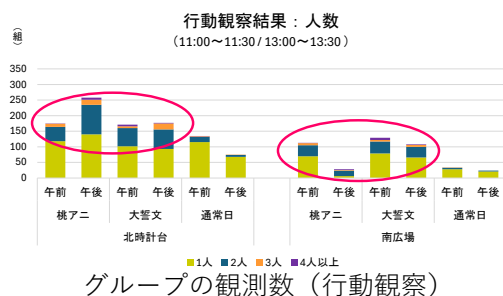
- ① **行動観察班**：岡山市が設置するAIカメラの情報を集計し、イベント時と平常時の人通りの世代差について傾向を把握しました。若者が桃アニメ祭りの時には多く訪れるものの、予想外に幅広い年齢層の参加者が見られることが明らかとなりました。その知見を基に、「おかやま桃アニメ祭り」と「大誓文払い」の二つのイベントを開催している日と、平日の来街者の行動について行動観察を行いました。イベント時に特異的に表れるグループや行動類型を把握できました。
- ② **質問紙調査班**：上記の二つのイベントの日に、複数名ずつ分担して来街者にアンケートを実施しました。印刷版の質問紙とオンライン（Google Forms）の回答画面を併用し、来街者の利用交通機関、居住地域・市町村や、表町商店街に対する印象や評価、イベントと商店街それぞれの再訪意向について質問しました。イベントの満足度が高い一方、商店街自体に対しては、特に若者層で自身の年齢層向けの店舗が少ないと感じる、といった課題が浮上しました。

活動成果

各調査から得たデータを基に、以下の見解を導きました。

- ・ AIカメラデータによると、予想外に幅広い年齢層の訪問が見られた。ターゲットとして設定した年齢層以外でも、イベントの雰囲気味わえる企画を実施することで、より幅広い年齢層の訪問を促進できる可能性がある。
- ・ 行動観察によると、子供、友人同士での来場者の割合が多かったため、親子で参加できるイベントや体験型イベントを開催することで、若年層の来街者が増える可能性がある。
- ・ 質問紙調査によると、イベントによって参加する年齢層や交通手段に違いがある。そのような差異を想定し、年齢層や交通手段に配慮した企画を行うことが重要だと考えられる。
- ・ 質問紙調査によると、イベント開催時には高い集客効果と再訪意向が確認できた。しかし、イベント非開催時における再訪意向は、相対的に低い傾向がある。商店街の日常的な魅力作りが今後の課題だと考えられる。

以上を資料にまとめ、商店街の関係者の方にお越しいたいただき、最終報告会を実施しました。



担当教員：塚常 健太

ポスター制作：①岡崎 友喜, 白石 悠樹, 中田 結斗, 森田 幸輝, 山田 雄生
(所属学生9名) ②松尾 照英, 田口 想真, 高橋 杏芥, 山崎 崇成